

「 α (アルファ)であり Ω (オメガ)」 ～あなたは満たされていますか？～

黙示21：3～8

私たちの心には、私たちの敵である不安がいつもあります。この不安は、私たちが神さまの愛から離れ、私たちが幸せに祝福されて生きるための最大の敵です。不安はないですか？あなたは満たされていますか？幸せですか？幸せな時に幸せといえるのは当たり前です。しかし、クリスチャンは違います。ダビデは「苦しみへ出会ったことは、私にとってしあわせでした。私はそれであなたのおきてを学びました。」(詩篇119:71)と祈っています。ダビデがどうしてこのような考え方になったかという詩篇23篇にもあります。神さまと一緒にいると安心です。どんなに不安があってもその不安はただの不安では終わりません。そう信じられるのは神さまが十字架の上で成してくださった奇跡です。しかし、私たちの心は不安から来る不信仰＝信じられない気持ちでいっぱいになってしまいます。神さまが与えてくれた隣人のことも神さまが教えてくれていることすら信じられなくなってしまいます。信じられなくなると、焦ります。焦ると私たちは正しい判断ができなくなります。本当はうまくいくことでさえ壊してしまう可能性があります。不安というのは大変な力を持っています。でも神さまには、もっと大きな力があります。「あなたがたの会った試練はみな人の知らないようなものではありません。神は真実な方ですから、あなたがたを耐えることのできないような試練に合わせるようなことはなさいません。むしろ、耐えることのできるように、試練とともに、脱出の道も備えてくださいます」(1コリ10:13)神さまは、私たちがいつまでも苦しみの中にいることを許可するはずがないのです。もし苦しみからいつまでもぬけられないのであれば、それは5cmのくぼみで死んでしまう羊のようにになっているのかもしれない。羊は5cmのくぼみで転んでしまうと、起きあがればいいのに不安でパニックになり、もがき続けて疲れ果てて死んでしまうのです。周りにいる羊も蹴飛ばされたり騒がれたり驚いて逃げていきます。私たち人間と似ています。「おくびょう者、不信仰の者、憎むべき者、人を殺す者、不品行の者、魔術を行う者、偶像を拜む者、すべて偽りを言う者どもの受ける分は、火と硫黄との燃える池の中にある。」(黙示21:8)と語られています。でも神さまは、これらをしてしまう人間の罪が十字架の奇跡で赦されたことをイエス様の生き様を通して教えてくれています。神さまが赦してくれたのだから心には安心が生まれます。心はまだ不安があるのは、神さまのこの十字架の赦しを受け入れていない証拠です。「事は成就した。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。わたしは、渇く者には、いのちの水の泉から、価なしに飲ませる」(黙示21:6)とあります。神さまは際限なく私たちにいのちの水を与えようと言ってくれているのに、自分の問題に気づけない・神さまが最高傑作に造ってくれたのにほんの少しの問題で自分を全否定したりして、私たちが拒絶しているのです。「自分はどうせダメなんだ」と思っていると不安になります。これ以上問題を受け入れられなくなります。ここで開きなおったり逆ギレせずに神さまの前に出て自分の中身から造りかえてもらいましょう。聖書にサマリヤの女の話があります。人目を避けてきた彼女が人前に出られるように変わったなら自分たちも変わるかもしれないとサマリヤ人がみんな神さまを信じた話です。今日のポイント①「永遠の神・もみの木に結ばれる」です。イエスさまがかかった十字架はもみの木で出来ています。もみの木は針葉樹です。針葉樹は葉が落ちません。つまり神さまは永遠に変わらないことを示しています。永遠というのはアルファでありオメガなのです。神さまは永遠に存在していつとも変わらないのです。だから葦のように揺れ動く心の私たちが変わらない神さまのところに行くと神さまが良しとして造られた元の姿に戻るのです。そしてポイント②「過去と将来は神の御手に」です。私たちの感情や思いや環境はどんどん変化していきます。でも私たちの本当の姿・思い、そして神さまが与えてくれた愛されたい・愛したいと言う思いなどは変わりません。「Ego, α sum Ω .」 「エゴ自我、アルファ(始め・過去)からオメガ(終わり・将来)に集約する。」という考え方があります。人間には欲があります。この欲がなければ人間は増え広がらないし良くならないし生きていけません。私たちの欲は大切なものなのです。ですから、この欲を捨て去るのではなく、制御すればよいのです。でも世間はこの欲を捨てろと言います。だから将来のビジョンがありません。夢も希望もなくなります。進歩も何もなくなるのです。それはオメガを排除した結果です。私たちはアルファ(始め・過去)もオメガ(終わり・将来)もどちらも大事にしなければいけないのです。神さまは、神さまの前に自我を置いて出て行く人には必ず将来を約束されます。神さまがサマリヤの女にしたことは過去の処理と将来の約束です。だから彼女は人前に出て行くことが出来たのです。過去の処理がなされなければ将来はありません。だから神さまは私たちの過去を変えたいと願っています。心に、まだ誰にも言っていない、神さまにも打ち明けていない悲しく辛かった過去が残っていませんか？神さまは、その過去のために十字架にかかれたのです。十字架を見てください。神さまと繋がって縦の関係が完成すると、横の隣人との繋がりが生まれます。そうすると③だから私たちは愛し合う(関わる)・さいま焼きをするのです。もみの木には「制圧する」という意味があります。神さまは愛をもって私たちに制圧してくれます。神さまは私たちのために十字架にかかられました。「一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ」(ヨハネ12:24)とあります。これは神さまです。この神さまのおかげで私たちの人生が変わったのです。だからそのことを伝えたくて人に関わるのです。愛がなければ悪霊の追い出しも異言の祈りも人との交わりも意味がありません。だから、子どものように過去の思い煩いも何もかも神さまの前に置いて、神さまの元へ行き、神さまと繋がると奇跡が起こります。どんなことがあっても逃げなければ神さまは私たちを変えてくださいます。だから④何があっても神の臨在で祈るのです。「ふたりでも三人でも、わたしの名において集るところには、わたしもその中にいるからです」(マタイ18:20)とあります。神さまの前に出て祈って裏切られることは絶対にありません。私たちの過去と将来を全部繋いで1つにしてマイナスだったものを今この時点でプラスに変えて、どんどん慈しみと恵みが私たちに追っかけてきています。どんな苦しみがあっても、もみの木のクリスマスツリーにその苦しみを飾り付けるように十字架に過去の悲しみ・苦しみを委ねましょう。そうすると必ずアルファ(始め・過去)だけじゃない！オメガ(終わり・将来)がやってきます！！そしてそのオメガに生きることで過去の全てのマイナスアルファがプラスアルファ(副産物)ができるまでに変わりますよ。(要約者：行司 佳世)